

日本分析化学会会長談話

会員の皆様におかれましては、益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。また、平素より本会の活動にご協力いただき心より御礼申し上げます。

さて、ここに改めて申し上げるまでもなく、学会は科学技術に関わる研究者・技術者コミュニティであり、科学技術を進展させ、社会へ貢献することは大きな目的の一つであります。そのために科学技術研究における成果の公表と意見交換の場を提供することは学会の重要な事業であります。

研究成果や技術開発成果の公表の方法は、主として学術集会における研究発表と学術論文誌による論文掲載によります。いずれの場合にも、審査や討論は科学者コミュニティに共通のルールと認識のもとに厳正に行われております。また、こうした研究活動は国や企業などの資金に支えられており、研究活動資金と学会活動は無縁とは言えません。特に国民の信頼のもとに国費で進められる研究成果発表の場であり、研究者・技術者集団である学会は、適正な科学技術の発展に対して社会的責任を果たさなければなりません。

残念なことにここ数年、国内外において科学技術への信頼を失墜させるようなデータねつ造や研究費の不正経理が大きな問題となっております。国民の信託を受けた研究活動の成果公表の場として学会はいずれの問題に対しても無関心でいることはできませんので、本会も極めて重大な問題として受け止めており、こうした問題に対して厳正に対応し、科学技術への信頼確保に努めてまいりたいと考えております。

ご承知の通り、本会元副会長であり元早稲田大学教授の松本和子博士に対して早稲田大学からデータねつ造の嫌疑がかけられ、また、文部科学省と経済産業省並びにそれぞれの研究助成機関である（独）科学技術振興機構と（独）新エネルギー・新技術総合開発機構から研究費の不正経理が指摘されました。このことを受けて本会では調査委員会を設置いたしました。調査にあたっては、研究成果に関する厳正な科学技術の方法論に則り、科学的判断の過程と公表手続きの妥当性について検討し、また、学会に調査権のない事項については公的機関により公表された内容に基づいて事実関係を正確に把握することに努めました。

その結果、データねつ造の嫌疑についてはその事実がないことを昨年12月に公表し、研究費の不正経理についてはその事実を認識いたしました。また、松本和子博士からは退会届が提出され、6月の理事会において退会を承認いたしました。

学会として、また科学者・技術者としての社会的責任を自覚し、より一層の信頼を確保していくために、本会に倫理規定と行動規範規定を制定するよう理事会に指示いたしました。

会員の皆様には、平素より研究成果に対して互いに厳正で公正な判断を下し、優れた成果に対しては互いに顕彰し、また、その成果を公表することで社会に貢献すること等、学会活動にご協力頂き深く感謝いたしておりますが、この機会に科学技術研究に対する信頼回復に向けてより一層のご理解とご協力を賜りますよう、改めてここにお願い申し上げます。

平成19年8月15日
(社) 日本分析化学会
会長 原口 紘丞